

気仙沼・本吉エリア

気仙沼市 南三陸町



安波山から眺めた5年目のまち並み(気仙沼市)



気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町です。

南三陸町では、平成27年10月、高台に校舎を再建した南三陸町戸倉小学校で授業が再開されました。戸倉小学校の校舎完成により、南三陸町の学校教育施設の復旧はすべて完了しました。また、平成27年12月には、津波で全壊した公立志津川病院・南三陸町志津川保健センターが再建され「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」として開設されました。新病院は、外来診療10科と病床数90床を設けています。併設の総合ケアセンターには、保健センターや地域包括センターなどが設置され、医療と保健・福祉の連携による包括的なケアが進められています。

気仙沼市では、気仙沼市魚市場で生鮮カツオの水揚げ量が19年連続日本一となりました。同魚市場では、高度衛生管理に対応した新たな施設の建設が開始されており、平成28年度末に完成する予定です。

インフラ関連では、防災集団移転団地等へアクセスする道路として、平成27年6月に一部開通した「県道気仙沼唐桑線^{ひかしもろね}東舞根復興道路(気仙沼市)」については平成27年度末に、平成27年10月に一部開通した「国道398号戸倉復興道路(南三陸町)」についても、平成28年度早々にそれぞれ全線開通となる予定です。

気仙沼・本吉エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	1,834人	10,550人
行方不明者	432人	1,238人
全壊	11,626棟	82,999棟
半壊	2,749棟	155,129棟

(平成28年2月29日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成28年2月
プレハブ住宅	14,094人	8,046人
民間賃貸借上住宅	6,085人	1,635人
計	20,179人	9,681人

(平成28年2月29日現在)

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成27年2月	平成28年2月
計画戸数	2,893戸	2,871戸
着手戸数	2,893戸	2,871戸
完了戸数	179戸	720戸

(平成28年2月29日現在)



南三陸病院・総合ケアセンター南三陸(南三陸町)



カツオの水揚げの様子(気仙沼市)

気仙沼・本吉エリアの定点観測

気仙沼市大谷海岸周辺

防潮堤が損壊し、海岸防災林の多くが流出した大谷海岸は、土のうによる応急対策が行われ、施設復旧と防災林の再生が進められています。



気仙沼市魚市場周辺

津波と地盤沈下により大きな被害を受けた魚市場は、土地のかさ上げ工事が進められ、水揚げ量は震災前の約7割以上まで回復しました。



気仙沼市唐桑町只越地区周辺

津波によって寸断された道路が復旧し、現在は、防災集団移転促進事業や防潮堤の整備が進められています。



南三陸町立志津川中学校からのまち並み

町全体が津波で被災しましたが、かさ上げ工事が進んで、新しいまちの形が少しずつ姿を現し始めています。



南三陸町志津川助作地区周辺

道路のかさ上げ工事が進み、また、写真後方の高台では、防災集団移転促進事業による住宅地の造成工事が進められています。



南三陸町伊里前地区のまち並み

本設の商業施設を建設するために、仮設商店街を一時移転（写真中央）してかさ上げ工事を進めています。



2015年4月2日 木曜日

健やかで暮らしやすい地域を

(気仙沼市)



障がいのある子どもの保護者や子育てに悩む人を対象にしたカウンセリングルーム「陽だまり」がオープンしました。運営する一般社団法人「かもみ〜」代表の小原美佐子さんは、「築いてきたネットワークを生かし、自分たちができることをしたい」と語ります。

2015年5月15日 金曜日

母国のために役立ててください

～広がるネパール地震被災地支援～ (気仙沼市)



「東日本大震災では世界中から支援をいただいています。ネパールの人たちのことを放っておくことはできません」「できることで恩返しをしていきたい」。4月25日にネパールで発生した地震の被災地のために、気仙沼市民の間で支援の輪が広がっています。

2015年6月21日 日曜日

みんなが笑顔になれるプロジェクトを目指しています

(南三陸町、東京都)



震災直後から地域ニーズに合わせた活動を続けてきた MSR smile project の野崎佳世さん。手芸小物など女性の手仕事などを支援しています。「10年後には、東北の女性たちが震災前より幸せになってほしい」と話します。

2015年6月27日 土曜日

被災地ツアーで見えてくるもの：南三陸町編

(南三陸町)

震災の跡を訪ねる「南三陸復興ツアー」でガイドを務める社会貢献共同体ユナイテッド・アースの工藤望さん。「忘れられることが怖い、と被災した皆さんは話します。ツアーで人々が来てくれることが、心の支えになっているのです」と語ります。



2015年7月8日 水曜日

ヘリコプター搬送で遠隔地の医療格差の減少を

(気仙沼市)

気仙沼市から都市部の医療機関へ、患者の搬送や災害時の対応などにヘリコプターを運用している「NPO 法人オールラウンドヘリコプター」。メンバーの救急救命士・渡部圭介さんは「医療格差の解決に向けて空から新たな挑戦です」と話します。



2015年7月24日 金曜日

開設から46年。新しい夏を迎えた神割崎キャンプ場

(南三陸町)

神割崎キャンプ場が今年、施設をリニューアルしました。3人の若いスタッフのうち1人は、震災を機に大阪から南三陸町に移住して来ました。皆、「この場所を南三陸にやってくる人たちと、地元の人たちとの交流の場にしたい」と張り切っています。



2015年8月4日 火曜日

地域の保健室としての役割を担っています

(気仙沼市)



津波で多くの方々が命を失った気仙沼市階上地区で、「NPO 法人生活支援プロジェクトK」が「地域の保健室」として活動しています。保健、福祉などの専門スタッフたちが、日常生活の中での困り事や健康に関する相談などを広く受け付けています。

2015年8月21日 金曜日

気仙沼に「お米丸」参上！おいしいお米でできている「モノ」知ってる？

(気仙沼市、石巻市、大阪府)

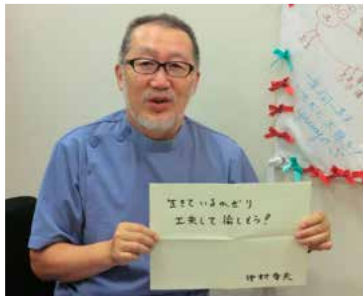


震災の際、被災地に14万食もの食事を届けてくれた「株式会社魚国総本社」の皆さん。今回は気仙沼の子どもたちのために、国産米粉と気仙沼港に水揚げされたマグロの加工品を使用した米粉ピザの試食会や紙芝居を披露してくれました。

2015年8月24日 月曜日

生きている間を愉しむためのヒント

(南三陸町)



過疎地域の医療格差と医療資源の疲弊軽減に取り組んでいる医師の中村幸夫さん。震災を機に南三陸町に移って、「超高齢社会を生き続けるための努力の営みを愉しむ」と題し、月に2回ほど町民向けの健康講座を開催しています。

2015年9月9日 水曜日

支えて支え合う「仲間たち」のチカラ

(南三陸町)

伊里前福幸商店街で開催された「歌津復興夏まつり2015」。ボランティアの数が徐々に少なくなる中で、震災直後から南三陸町で活動する「NPO法人フェローズ・ウィル」の皆さんが、今年も開催をがっちり支えてくださいました。



2015年10月22日 木曜日

被災地に元気を！ バレーボールのトップの選手たちが高校生を指導しました

(気仙沼市)

「バレーボールを通じて、元気を取り戻してほしい」と震災以来気仙沼市民と交流を続けている、株式会社ジェイテクト男子バレーボール部「ジェイテクト STINGS」の選手たち。この日も本吉管内の高校生のためバレーボール教室を開催し、熱心に指導してくれました。



2015年11月10日 火曜日

震災から5年！復興はこれから！ 私たちは応援し続けます

(気仙沼市)



大阪、滋賀、静岡、仙台の各弁護士会所属の有志による講演会と法律相談会が気仙沼市で開催されました。代表の大川哲司弁護士は「今回限りで終了と考えていたが、現実を見れば、そうもいかない」と話し、活動の継続に意欲をみせました。

2015年11月30日 月曜日

地域資源が循環するエコタウン

南三陸 BIO が完成しました (南三陸町)

復興計画に「バイオマス産業都市構想」を盛り込む南三陸町。10月16日、官民連携で事業化を進めてきたバイオガス施設「南三陸 BIO (ビオ)」が竣工しました。『森・里・海・街の豊かさが循環するまち』の実現の第一歩です。



2015年12月18日 金曜日

保健と医療と福祉のまちへ！

「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」落成 (南三陸町)

病院の機能のほか、地域の保健や福祉といった行政サービスの拠点も加えた「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」が完成し、11月25日落成式が行われました。地域包括ケアシステムの構築に向け、新たな「福祉のまちづくり」のスタートです。



2016年1月8日 金曜日

仮設商店街最後の初売り風景

(気仙沼市)

平成28年10月に閉鎖となる仮設商店街（気仙沼復興商店街紫市場と復興屋台村気仙沼横丁）で、最後の初売りが行われました。「最後までお客さんの笑顔のために働きたい」と女性経営者。「復興のため商人の皆さんにはがんばってほしい」と買い物客。当日は、地元の方や観光客でにぎわいました。



2016年1月27日 水曜日

音楽の力も町の復興のエンジンの一つ

(気仙沼市)



気仙沼市を中心に、震災前から音楽で町を元気にしようと活動を行っている三浦喜市さん。震災後は「気仙沼復興商店街南町紫市場」で「きりぎりす」として毎月ライブを開催しています。「音楽を通じて多くの人たちと交流を深め市民の心の復興を後押ししていきたい」と話します。